

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：33920

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26460599

研究課題名(和文) SPパフォーマンス評価票の開発とSPの質の実態調査

研究課題名(英文) Developing a measurement to assess Standardized Patient performance and SP performance nation wide survey

研究代表者

阿部 恵子 (ABE, KEIKO)

愛知医科大学・看護学部・教授

研究者番号：00444274

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：一般市民が一定の訓練を受けて患者役を演じる模擬患者は、コミュニケーション教育の教育人材として重要な役割を担っている。現在では、1000人以上のSPが活動していると報告されている。しかし、SPの増加が進む一方で、医療面接教育における演技とフィードバックの練習不足、OSCEにおけるSPの演技標準化の不十分さが指摘されて久しい。本研究では、SPのパフォーマンスの評価票を使って、全国のSP養成者にSPのパフォーマンス調査を依頼した。その結果、26施設269名のSP評価が得られ、現在のSPの演技とフィードバックの特徴及び、SPの経験年数、練習時間、対象学生の属性、課題との関係を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Simulated patients whose citizen receive certain amount of training and perform patient play an important role as an educational personnel for communication education. It is said that currently, more than 1000 SPs are actively working as an SP. However, as SPs increase, the lack of exercise and feedback exercises in medical interview education, and insufficient standardization of SP performance in OSCE have long been pointed out. In this study, we prepared evaluation questionnaire on SP performance (acting / feedback) and verified the validity. Also, using the evaluation questionnaire, we requested the performance investigation of the SP belonging to the SP groups nationwide. As a result, the performance evaluation of SP of 26 universities, 269 was obtained, the characteristics of the present SP's performance and feedback, the years of experience of SP, the practice time, the attributes of target students, and the relationship with the task were clarified.

研究分野：医歯薬学

キーワード：模擬患者 模擬患者教育者 パフォーマンス 演技 フィードバック

## 1. 研究開始当初の背景

1990年代よりSP参加型教育が導入され、その有用性に関しては周知の通りである。2005年から開始した共用試験OSCE(客観的臨床能力試験)に伴って、SPの需要が急激に増加した。SPの全国調査によると現在1000人以上のSPが活動していると報告された(志村他 2010)。しかし、SPの量的増加が進む一方で、OSCEにおけるSPの演技の標準化が不十分であるという問題が指摘されている。

また、OSCE以外のSP参加型医療面接教育においても、しばしばSPの演技やフィードバックが不適切であると指摘されている。SPのフィードバックは学習者にとって患者の声としてインパクトが高い反面、トラウマになる可能性もある。全国SP意識調査の結果、SPは経験を経ることで演技の負担は軽減するが、フィードバックに関しては経験年数が多いほど負担と感ずる度合いが高まっていた。また、その原因として練習が十分に行われていないことが挙げられた(阿部他 2007)。これらを背景に、演技、フィードバック、評価、演技の標準化に関する基礎練習および継続的練習を行い、一定の質を担保するとともに、SPの不安や負担感を軽減させることが必要と考える。

学生の臨床技能の習得には繰り返し学習の機会を設けることが重要である。しかし、現状は、SPにおまかせでSP参加型教育の体裁を取っているという大学も少なからず存在し、理想的な学習環境とは言えない。十分なSPトレーニングと、SP養成者の負担を軽減するための地域の大学間でSP養成者の合同養成のシステム作りが必要である。本研究チームはMEDCのワークショップで多数のトレーニングの実績をもち、多くのSP養成者を育成して来たが、その成果を測定する評価ツールが存在しない。日本のSPに求められるパフォーマンスに合致した評価票を開発することが急務である。

## 2. 研究の目的

東海地域の医療系大学が協働する東海SPネットワークを基盤として、SPの基礎練習及び継続練習を実施して、SP養成の標準化を目指す。そして、SPのパフォーマンスを評価するための評価票を開発し、全国SPの質の実態調査をし、SPの質と練習量、経験、

性別、不安度などとの関係を明らかにする。

## 3. 研究の方法

本研究は、(1)SP養成の標準化のため東海SPネットワークでの活動を実施し、(2)SPパフォーマンス評価票を開発し妥当性を検証、(3)SPパフォーマンス評価票を用いて、全国SPの質の実態調査を実施し、その結果を解析した。

### (1) 東海地区SP勉強会 & 交流会

春と秋の年に2回、東海SPネットワークに参加する7大学と1組織のSP養成者の企画で以下の勉強会を実施した。

H26.7.31第4回「感情表現と役作り」三重大学、  
H27.3.2第5回「歯科のシナリオでSP体験」愛知学院歯学部、

H27.8.5第6回「『痛み』を表現してみよう」岐阜大学、

H28.3.5第7回「フィードバックの達人になろう！」名古屋大学

H29.1.27第8回「OSCEでの学生のパフォーマンスを評価してみよう」岐阜大学、

H29.8.3第9回「行動変容の段階を演じ分けよう」三重大学、

H30.3.9第10回「Standardの演技とSimulationの演技を演じてみよう」名城大学

### (2) SPパフォーマンス評価票の開発と妥当性の検証

H26年度、SP養成者及び医学教育専門家8名によるエキスパートパネルにて、SPパフォーマンス評価票を作成した。

OSCE前の基本的情報収集を目的とした医学・歯学・薬学・看護学の医療面接ビデオ(5分面接+2分フィードバック)を作成した。ビデオは医療面接を基本とし、シナリオ及び学習目的とは異なったSPの演技、フィードバックを含めた。全国のSP養成者59名(医学24名、歯学14名、薬学11名、看護学10名)に協力いただき、学習目標とSPシナリオを確認後、ビデオを視聴し評価を依頼した。結果は、統計ソフトSPSSを用いて、信頼性係数と因子分析を行った。

### (3) SPパフォーマンス評価票を用いて、全国SPの質の実態調査

SP養成者を対象に、医学教育関係のメーリングリストにてSPパフォーマンス評価を

依頼し、返信のあった24施設のSP養成者に評価方法を説明し、評価の依頼をした。平成28年度の調査依頼の結果、8施設14名のSP養成者の協力によりSP90名と予定より少ないサンプル数であったため、再度メールによる依頼と、九州大学他、5大学に研究者が訪問し調査した。その結果、26施設、269名のSPパフォーマンス表を回収した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 東海地区SP勉強会 & 交流会

第4回から第10回実施した勉強会のアンケート結果から、ほとんどの評価が4以上で、特に4回目の感情表現や、7回目のフィードバックで役に立つと回答し、新しい発見としては第1回、第6回、第8回、第9回、第10回と感情や痛みの表現、評価や演じ分けなどで強く同意するに近い結果が得られた。これまで練習に取り入れていない教育方法の新たな取り組みから発見があったと推測された。

##### (2) SPパフォーマンス評価票の開発と妥当性の検証

SP養成と教育評価の専門家によるエキスパートパネルの結果、大項目として「演技」と「フィードバック」の2項目が挙げた。「演技」は役作りに基づく演技のリアリティが4項目、教育目的にあったパフォーマンスが3項目、医学的に正しい症状の演技が3項目、「フィードバック」は何に注目してフィードバックしたかが2項目、どのようにフィードバックしたかが3項目フィードバックの質が6項目の合計21項目で構成された。いずれも4段階評価とした。

全国から45名(76%)のSP養成者から協力が得られた。全評価票(n=180)の信頼性係数は0.801であった。因子分析では主因子分析のプロマックス法にて3回の回転を経て収束し2因子が抽出された。また、スクリープロットにより2因子を確認した。第1因子は「演技力」(8項目 例:シナリオと一致した発言)、第2因子は、「フィードバック力」(7項目 例:患者の問題に一致したフィードバック)とした。内的整合性を確認し、項目削除時のとI-T 相関の結果より、演技では2項目、フィードバックでは4項目を残余項目として除外した。結果、全項目のは0.865、第1因子は0.896、第2因子は

0.722 となり、SPパフォーマンス評価票は医療系の医療面接を評価する尺度として妥当であることが検証された。

##### (3) SPパフォーマンス評価票を用いて、全国SPの質の実態調査

26施設、269名のSPパフォーマンス表を回収した。その内、欠損値を省く有効回答は242名であった。信頼性係数は0.83であった。対象SPの経験年数は平均6.2年(SD=4.8)、年齢は62.2歳(SD=11.27)、性別は女性75%、練習時間は平均2.3時間(SD=1.3)であった。学習課題は情報収集が74%で最も多く、説明9%、Bad News4%、患者教育2%であった。評価平均点は演技力36.4点(SD=3.6)、フィードバック力は21.9点(SD=1.8)と高得点であった。項目毎ではフィードバック力の「患者の問題に一致したフィードバック」PNPで伝える」の得点が低い傾向であった。重回帰分析の結果は、パフォーマンス合計点に対して時間( $\beta=0.34, p<0.01$ )が最も大きな影響因子であった。演技において大差はなかったが、フィードバックの内容に患者の問題や改善点を含む内容を構成する点で更なる練習が必要であることが示唆された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

1. 峯田保恵、半谷真七子、神谷俊範、札軒芽衣、亀井浩行：妊娠・授乳中の患者の解釈モデルを考慮した服薬説明を支援する薬剤師のコミュニケーションスキルトレーニングの効果の検討 医療薬学, 44, 74-82 2018
2. Keiko Abe, Masayuki Niwa, Kazuhiko Fujisaki, Yasuyuki Suzuki. Associations between emotional intelligence, empathy and personality in Japanese medical students, BMC Medical Education. 2018;18:47

[学会発表](計 7 件)

1. Keiko Abe, Manako Hanya, Michiko Goto, et al. Introducing “Guess the Pain”: the game to understand

- difference and to standardize SP pain expression. ASPE 2016.6 in Tampa USA.
2. Keiko Abe, Manako Hanya, Chicaco Inoue, Kozue Ito, "Guess the Pain: the game to understand the difference and to standardize SP pain expression. A SP day in ASPE conference, June 3, 2017 Alexandria, Virginia, USA.
  3. Keiko Abe, Manako Hanya, Michiko Goto, et.al. Developing a measurement to assess Standardized Patient performance: Analyzing reliability and validity. ASPE conference, June 4-7, 2017 Alexandria, Virginia, USA.
  4. Keiko Abe, Yaeko Terada, Masako Miura, Ikumi Honda, Etusko Fuchita. Effects of communication training run by collaboration of clinical nurses and nursing teachers for 2<sup>nd</sup> year nursing students prior to clinical practice. The 37<sup>th</sup> Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science. December 16 2017, Sendai, Japan
  5. 阿部恵子, 半谷眞七子, 後藤道子, 藤崎和彦, 寺田八重子, 三浦昌子. 模擬患者 (SP) パフォーマンス全国調査の中間報告: 演技とフィードバックに影響を与える要因. 第49回日本医学教育学会 口演、札幌コンベンションセンター 2017.8.18-1
  6. 阿部恵子, 寺田八重子, 三浦昌子, 末松三奈, 半谷眞七子, 淵田英津子, 内山靖. 多職種連携教育(IPE)の2日日程から1日日程への変更がチームワーク能力及びIPEに対する認識に及ぼす影響, 第1回日本ヒューマンヘルスケア学会 口演 人間環境大学大府キャンパス2017.9.30
  7. 阿部恵子, 寺田八重子, 三浦昌子. 地域の看護管理者向け模擬患者参加型体験学習の試み: 「教える」から「気づきを引き出す」学習へ. 第48回日本看護協会看護管理学会 ポスター 札幌コンベンションセンター2017.10.12-13

〔図書〕(計 3 件)

岐阜大医学教育開発研究センター編「新しい医学教育の流れ」第16巻3号 2016、三恵社、

名古屋 (p.189-190、ISSN2189-5872)

岐阜大医学教育開発研究センター編「新しい医学教育の流れ」第17巻3号 2017、三恵社、名古屋 (p.259-261、ISSN2189-5872)

岐阜大医学教育開発研究センター編「新しい医学教育の流れ」第17巻4号 2017、三恵社、名古屋 (p.321-324、ISSN2189-5872)

## 6 . 研究組織

### ( 1 ) 研究代表者

阿部 恵子 (ABE, Keiko)  
愛知医科大学・看護学部・教授  
研究者番号 : 00444274

### ( 2 ) 研究分担者

半谷 眞七子 (HANYA, Manako)  
名城大学・薬学部・准教授  
研究者番号 : 40298568

安井 浩樹 (YASUI, HIROKI)  
名古屋大学・医学系研究科・准教授  
研究者番号 : 20362353

後藤 道子 (GOTO MICHIKO)  
三重大学・医学部・助教  
研究者番号 : 10608946

### ( 3 ) 連携研究者

藤崎 和彦 (FUJISAKI, KAZUHIKO)  
岐阜大学・医学部・教授  
研究者番号 : 60221545

植村 和正 (UEMURA, KAZUMASA)  
名古屋大学・医学系研究科・教授  
研究者番号 : 40303630

伴 信太郎 (BAN< NOBUTARO)  
名古屋大学・医学系研究科・教授  
研究者番号 : 40218673

青松 棟吉 (AOMATSU, MUNEYOSHI)  
名古屋大学・医学系研究科・助教  
研究者番号 : 30571343